

中牟田晃基 (なかむた・こうき)

北海道大学 RB 4年

昨季、伝統のラン攻撃が爆発し、2年ぶり26度目の北海道学生王者に返り咲いた北海道大。連覇のカギを握るのが180センチ、90キロの大型RB、中牟田だ。持ち味は恵まれたサイズを生かして「タックルされても倒れない」と言うパワフルな走り。昨季はエースRB荒山赳（当時4年）のバックアップながら、リーグ戦5試合で46回、350ヤード（リーグ4位）を走り、9TDを奪った。東北大に惜敗したパインボウルでも短いパスを捕球後に30ヤード余りを激走し、先制のTDを挙げた。埼玉・浦和高まで続けたバスケットボールの経験を生かしてパス攻撃も巧みにこなす器用さも魅力だ。

バスケットボールでは身長が足りないと感じたときに出会ったのがアメフト。

「身長や特性に応じて活躍の場がある。1プレーごとのスキルの追求もおもしろい。戦略的な魅力もある」と、大学入学後に迷わずアメフト部に入った。「ボールを扱うポジションがしたい」と1年生からRBに。2年生の秋、リーグ戦初戦の北海学園大戦に抜擢されたが、左肩を脱臼するアクシデントに見舞われ、手術も受けた。復活の舞台となった昨季は「やっと思い切りできるシーズンだった」と能力を開花させた。「荒山さんと2人でオフェンスを引っ張った」と自信も生まれた。



そして、副将、オフENSリーダーとして攻撃陣を引っ張る今季。コロナウイルス感染拡大を防ぐための部活動自粛期間中に、スピード強化に励んだ。「スクリーメージラインを抜ける速さを増した」と手応えも得た。Aブロック3校のリーグ戦は、初戦の帯広畜産大戦が相手校の棄権で不戦勝になった。第2節の札幌学院大戦（18日）の勝利と、Bブロック首位との優勝決定戦を見据え「プレーでチームを引っ張りたい。ランが増えると思うので、しっかりとヤードを稼ぎたい。2試合で200ヤード獲得が目標」と意気込む。リーグ戦の先のパインボウル（11月23日）、東日本ボウル（12月20日）も「しっかりと勝ちきりたい」と力を込めた。

【プロフィール】

1997年4月22日、福岡生まれ。工学部環境社会工学科。「同じような体格でカットバックがうまく、タックルされてもゲインできる」とXリーグ・オービックのRB李卓選手が目標。座右の銘は「No one has ever drowned in the sweat（だれも汗でおぼれない）」。